



■ 社会システム科学部

金融・経営リスク科学科

仕事や暮らしなど、生活のあらゆる場面で役立つ
リスク管理の知識やスキルを、多角的視点から養います。



① 金融分野を専攻する3つの研究室が合同で行うゼミ。模擬投資シミュレーションを行う。②④さまざまな種類のリスクが、日常の暮らしの中にも潜んでいることがわかる。その気づきが、次の学びにつながっていく。③授業中にiPadやパソコンで情報を収集することも。学びの深め方も修得していく。

Feature of Department

リスクを正しく予測・解決する力は、
仕事や暮らしなど多方面で活かされます。

投資リスク、SNSへの不正アクセス、製品事故、さらには対人トラブルまで、私たちの周りにはさまざまなリスクが潜んでいます。残念ながら、リスクをゼロにすることは難しく、事前対策となる「リスクマネジメント」の重要性が高まっています。本学科では社会をつくる「金融」「情報」「生産」「生活」の4分野からリスクの理解を深め、リスク発見能力、分析・評価能力、リスク対策立案能力、コミュニケーション能力を養います。これらは、あらゆる業種で役立つスキルです。さらに、国際コースでは、グローバルに活躍できる人材を育てます。



高木 彩准教授

POINT

1

日本で先駆けて
リスクマネジメントに
特化した学科です。

POINT

2

「国際コース」で
グローバル人材の育成も
めざします。

POINT

3

4分野を
横断的に修得し
幅広い能力を養います。

私のまなび



加藤 小百合さん 3年
千葉県
県立君津高等学校 出身

金融の持つリスクを学び、
自分にしかできないことを見つけたい。

お金や株について前から興味があり、大学で専門的に学んでみたいと思っていました。自宅から近いので千葉工業大学の名前はよく知っていましたし、リスクという観点から金融を学べるところに魅力を感じ、この学科を志望しました。大学は女子専用ラウンジなど施設面で女子への配慮が行き届いてとても過ごしやすいです。また、食堂のメニューが豊富で、どれも安くボリュームがあるのもうれしいところ。充実した大学生活が送れています。現在の研究テーマは、テレビの視聴率やWebページの閲覧履歴から顧客の傾向を分析して、テレビの視聴率を上げる方法を考えることです。こうした分析や問題解決の手法を身につけ、将来は銀行員として働くのが目標です。AIに取って代わられる職業といわれますが、自分にしかできないことは必ずあるはず。そのヒントを大学生活で見つけたいです。

My must item

私のマストアイテム

ノートパソコンと専門書が私のマストアイテム。さまざまなデータの分析に役立ちます。



4分野

金融分野

金融リスクを把握し、回避する手法を学びます。

情報分野

ネットワーク時代の危機管理術を学びます。

生産分野

安全・安心な製品づくり、技術やエネルギーのリスクを学びます。

生活分野

消費者・生活者を取り巻くリスクを学びます。

活躍できる
業界・職種

企業や行政の財務・経理担当者／銀行・証券会社など金融機関のリスクマネージャー／災害・危機管理対策企画者／環境管理マネージャー／ITリスクマネージャー／消費生活アドバイザー／食品メーカーなどの生産管理技術者／経営コンサルタント 他

4年間の学びのステップ

1年次

経済活動の仕組みを学び、
リスクの理解を進めます。

「リスク」を理解するためには、社会のシステムや企業の意思決定の仕組みなど、背景となる経済活動を知る必要があります。そうした基本の学修からリスクへの理解を深めます。

教養教育についてはP.28へ

2年次

4分野のリスクについて
横断的に学びます。

金融・情報・生産・生活の4分野のメカニズムを学び、それぞれのようなリスクが潜んでいるのか、考えを深めます。国際コースの学生は、夏期休暇中に海外提携大学で2科目を履修します。

コース決定

科目		1 Semester	2 Semester	3 Semester	4 Semester
学部共通 専門科目	論理的理解の養成	基礎数学および演習	線形代数入門	オペレーションズリサーチ入門	データ解析入門 データマイニング入門
	エンジニアリングの養成		情報リテラシ ベンチャービジネス論	科学技術者倫理 環境保護と法	
	社会システム科学の基礎	社会システム科学入門	企業の法的環境 社会システムと意思決定	ビジネスコミュニケーション	
専門科目	基礎科目	情報処理基礎および演習 リスク科学概論	コンピュータサイエンス入門 経済金融入門	プログラム言語基礎 環境リスク 確率論	ファイナンス概論
	基幹科目	安全と安心の心理		リスク対策と保険 *グローバル・スタディーズI *グローバル・スタディーズII	知的財産権 経営管理論 会計システム 情報リスクマネジメント 金融リスク論 製品安全マネジメント
	展開科目				
	発展科目				

授業 Pick Up!

投資戦略
と評価

株式、債券、外貨などへの投資を
体系的、実践的に学びます。

喜多村 正仁 准教授 | 意思決定、金融投資、金融リスク管理、システム科学、最適化

超低金利の時代に資産を増やすには、銀行に預金をするだけでなく、リスクをとって投資をする必要があります。投資は一獲千金を狙うマネーゲームという面が強調されがちですが、自らの資金が世界中をめぐって企業や国、国際機関の活動原資となり、人々の生活を豊かにするという側面を持っています。本科目では、株式、債券、外国為替やそれらを組み合わせたさまざまな投資対象の性質と投資方法を解説します。投資判断の基礎となる世界経済の見方、企業の財務分析、売買のタイミングを見極めるテクニカル分析や運用資金のリスク管理など、体系的で実践的な投資の知識を理論と演習で身につけます。



企業に投資する際の基本情報の見方や分析方法を修得する。

資源・
エネルギー
リスク管理
メント

資源やエネルギーを通じて
日本の将来を考えます。

山崎 晃 教授 | 自然エネルギー、省エネルギー・省資源、技術経営、プロジェクト計画、最適化

東日本大震災による原子力発電所の事故は、私たちを取り巻く資源やエネルギーの状況を考えるきっかけになりました。また、北海道の地震や台風による大規模な停電などに見られるように、日々の生活は、資源やエネルギーに関するリスクに多大な影響を受けています。日本は、国内資源に乏しく、石油やガスなどのほぼ全量を海外に依存しています。他方で、二酸化炭素の放出による地球温暖化は、わが国のみならず世界規模で取り組んでいかなければならない問題です。このような状況において、日本という国として、そして国民である私たちがリスクをどのようにとらえ、どのように対処していくかを、この科目を通して考えていきます。



さまざまなエネルギーについて、そのメリットとデメリットを検証していく。

3年次

ケーススタディに取り組み、
具体的手法を身につけます。

3年次から研究室に所属。ケーススタディを通じて具体的なリスクマネジメント手法を身につけます。国際コースの学生には、海外インターンシップや海外研修の機会があります。

研究室決定

5 Semester

6 Semester

4年次

関心のあるテーマを絞り、
卒業研究に取り組みます。

総仕上げとして卒業研究に取り組みます。関心のあるテーマに絞り込み、実例の調査やリスク課題を研究し、その過程で、実社会で生かせるプレゼンテーションや文書作成の能力も養います。

注目の研究!

- 信用リスク評価、金融投資、金融リスクマネジメント
- 製品安全のためのリスクアセスメント
- 環境リスク管理
- 社会心理学・リスク心理学
- 情報セキュリティと経営リスク、IoTとAIの活用
- 資源・エネルギー・技術の開発に関連するリスク
- 金融工学、投資リスク管理、意思決定数理モデル 他

Pick Up!

Pick Up!

サービスサイエンス入門
金融工学
コーポレートファイナンス
情報システム開発
サイバーリスクマネジメント

組織運営のリスクマネジメント 投資戦略と評価
技術開発リスクマネジメント
資源・エネルギーリスクマネジメント
産業・組織心理学
環境リスクマネジメントおよび演習
ヒューマンファクタのリスクおよび演習
リスクコミュニケーションおよび演習
生産システムおよび演習
金融・経営リスクマネジメント実験

情報技術社会論
防災および危機管理システム
投資シミュレーションおよび演習

ゼミナール1

ゼミナール2 課題研究

卒業研究

(赤字:必修科目 黒文字:選択科目 緑文字:コース必修) ※カリキュラムは一部変更となる場合があります。
*国際コースのみ履修可能

研究室 Pick Up!

お金の貸し借りにともなう リスクを数値化しています。

みなさんは相手がどんな人ならお金を貸してもいいと思うでしょうか。もちろん、それは「必ず返してくれる人」のはずです。銀行も同様で、信用が一番です。ましてや企業への融資となると金額が大きく、倒産により返済不能となるリスクもありますから、判断がとても難しくなります。その判断基準となるのが「倒産確率」という指標です。私たちの研究室では統計手法を用いて企業の「倒産確率」を算出する研究を重ねています。統計を身につければ複雑なデータから傾向をつかめるようになり、企業分析や金融、マーケティングなど幅広い分野で生かれます。



安藤 雅和教授

金融投資
金融リスク管理、
シミュレーション、
品質管理



統計解析手法を使って金融リスクを見極める。

身のまわりの事故を研究し、 消費者の安全対策につなげます。

水泳教室は小学生の定番ともいわれる習い事ですが、毎年夏になると、こどもの水難事故が絶えません。その理由を調べてみると、水泳教室では泳ぎ方は教えていても、救命など安全に関する教育は行っていなかったのです。事実、オーストラリアは泳ぎ方より先に救命の方法を教えるため、水難事故も少ないのです。私たちの研究室では、水難事故だけでなく、食品への異物混入や防犯、品質管理など、身のまわりで起こるさまざまな事故をリスクとしてとらえ、消費者が安全に製品やサービスを利用できる方法を研究。行政や社会に注意喚起や提言を行うことをめざしています。



越山 健彦教授

スポーツ工学、
品質管理、製品開発、
生産システム、
人間工学



研究室には安全対策を分析するための模擬設備もある。

金融・経営リスク科学科の
研究室の
詳細はコチラにアクセス!

